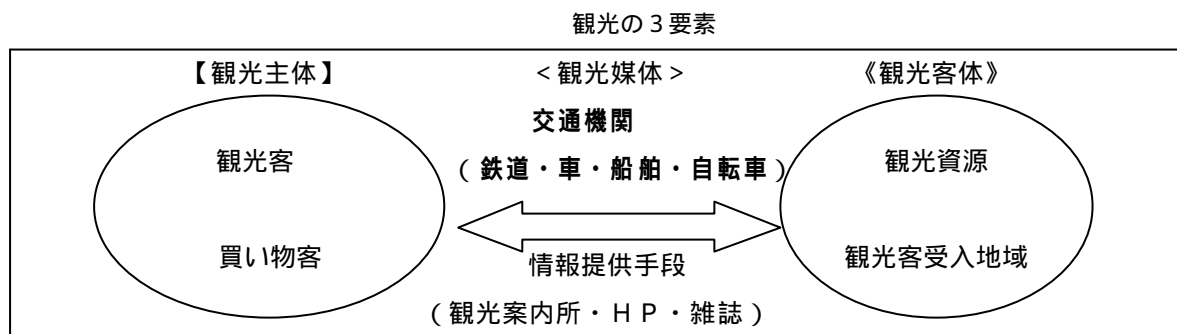


1. 観光と交通との相関関係

1. 観光における交通の位置づけ

1) 観光を構成する3つの要素

観光は、観光客（＝観光主体）が観光地や観光施設（＝観光客体）を訪問する行動であり、その行動を助長、促進する交通や観光情報（＝観光媒体）によって構成されており、観光振興を進めるにはこれらの3つ要素に対する刺激策を与えることが必要となる。



【観光主体】 観光客（旅行者、コンベンションへの参加者 等）

《観光客体》 観光資源（自然、温泉、旅館・ホテル、レジャー施設、町並み、イベント、産業施設、農山漁村体験、特産品、商業施設等の集客資源・施設とそのサービス）、受入地域 等

<観光媒体> 交通施設（道路・鉄道、移動手段）、情報（観光案内所、ガイドブック、HP 等）

2) 観光における交通の位置づけと役割

観光と交通の相互関係

【交通網の整備や廃止が観光に与える影響】

交通網の整備、特に広域的な高速交通網の整備は、地域の観光構造、特に観光客の行動特性に大きな影響を及ぼす。例えば、これまで発地（マーケット）からの時間距離が長く、アクセスが不便であった地域は新幹線や高速道路などの整備によって宿泊拠点になる一方で、従来は宿泊観光客で賑わっていた地域は、到達時間の短縮により日帰り圏になってしまい、観光入込客数は増加するものの観光消費額は落ち込むといったケースが現実には生まれている。

* 新幹線や高速道路の整備が、宿泊者増加をもたらすケースと宿泊客が減少して日帰り客が増加するケース

* 鉄道の廃線によって、観光入込客数が減少するケース

* 広域交通網の整備によって、マーケットが広域化（拡大）するケース 等

【観光の魅力向上が交通に与える影響】

魅力ある観光地が、交通需要を引き起こすこともある。例えば、集客力がある魅力的な観光地（地区）あるいは観光施設の形成によって、特急列車が増便されるなど既存の交通網を活用

した新たな交通需要が生まれる、あるいは観光需要を見込んだ交通網が新たに整備されるなどの効果を生み出すケースもある。このようなケースでは、交通網の整備によって観光振興が促進されるというよりは、むしろ観光地の魅力が交通需要に影響を及ぼしている。

- * 大規模なアミューズメント・パーク等の開業によって、新たな鉄道やバス路線が開設されるケース
- * 観光地の魅力度が向上することによって、遠距離からの特急列車が運行される、あるいは新型車両が導入されるケース 等

【交通と観光とが相互影響を及ぼしあう場合】

交通サービスの充実と、既存観光地の魅力度向上の両側面からの取り組みによって、観光入込客が増加する一方で、交通需要もさらに高まるケースが想定される。但し、この場合、「卵が先か、鶏が先か」で、上記の１）または２）のケースと明確には区別できないケースもある。

- * 観光地の魅力に向けて観光商品を造成すると同時に新型車両を導入し、ますます観光入込客が増加したため、さらに新型車両の増加と直通特急列車を導入し、駅舎を改築するケース
- * 交通網が整備されるとともに、その整備効果を活用して観光地が様々な取り組みを実施した結果、観光地としての魅力が向上したケース 等

【交通と観光がさほど影響を及ぼしあわない場合】

観光地が魅力的であるが故に交通面での不便さが観光需要に影響を与えないケースや交通面での不便さがむしろ観光地の魅力度を増しているケース等交通と観光がそれほど大きく相互に影響を及ぼしあわないケースが想定される。

- * 個性ある観光地としての取組みによって、交通が不便でも観光入込客数が増加しているケース
- * 車の乗入れ規制にもかかわらず、観光入込客数が維持・増加しているケース 等

観光における交通の役割

交通は主として観光媒体として位置づけられるものの、観光地は観光客の移動にそって演出される。また、海岸線や山岳・高原の道路や鉄道・バスの車窓のように結果的に美しい景観を見せる場を提供するという役割も持っている。普段見る自家用車からの風景と高い目線のバスからの風景、あるいは自転車から見るゆったりとした風景は、それぞれ観光風景の多様性を醸し出す手段としても有効である。

さらに、交通は単なる移動手段としての役割だけではなく、その乗り物自体が観光資源としての役割を演じるケースも多い。蒸気機関車、船、人力車等乗り物の他、長大橋やレトロな交通施設などもその地域の魅力を向上させる観光資源として活用されている。このように観光における交通には、単に移動手段としての交通のほか、観光地の魅力向上の仕掛けとしての役割を持っている。

このように観光と交通とは密接な関係を持っており、観光振興を通じた活力ある地域社会を構築するためには、交通整備と観光振興が相互に及ぼしあう影響や効果を十分に念頭において、諸施策を講じていくことが必要である。

2 . 近年の観光行動の変化と交通の役割

1) 近年における観光の傾向

■ 旅行形態が、個人・グループ化

わが国の経済低迷による企業の財務体制の弱体化と国民の価値観やライフスタイルの変化等により、会社の慰安旅行などの団体旅行が減少し、家族や友人・知人等と出かける個人・小グループ旅行¹⁾が増加している。また、観光情報の入手も容易になり、パッケージ商品ではなく、個人の好みや興味・関心にあわせた行動をとることができるようになったため、観光地は多様性だけではなく、個人のニーズに合致した個性的な取り組みが求められるようになっている。

¹⁾ 個人・小グループ旅行については定義はないが、次ページの表 - 3 で示したように、2 ～ 5 人を個人旅行、6 ～ 14 人を小グループととらえた。なお、1 人での単独旅行は個人旅行ではあるが、全体から見るとまだ少数である。

■ 「安・近・短」及び「安・遠・短」の傾向が継続

バブル経済後、「安・近・短」といった低価格で居住地から近距離の観光地を訪問する1 ～ 2 泊の旅行が主流になっていた。しかし、その後、インターネット等による低価格商品の販売や航空運賃の自由化等による低価格の旅行が造成され、従来の「安・近・短」に加えて、「安・遠・短」の旅行が継続して好調である。

■ 体験型観光等旅行ニーズが多様化

近年は、大量輸送・大量消費型の観光から、グリーンツーリズムやエコツーリズム、都市散策と言ったオルタナティブ・ツーリズムが注目されている。オルタナティブ・ツーリズムは、地域自体が観光資源であるという考え方のもと、伝統文化、歴史的街並み、自然、地場伝統工芸等地域独自の資源を観光資源ととらえるところに特徴がある。また、農山漁村での体験を通じて地元の方々との交流や農業・漁業体験等を通じた体験型メニューへの注目が高まっている。

■ 国際観光の振興

日本人の海外旅行者数は、1990（平成2）年に初めて1,000万人を超えて以降、海外旅行者は順調な伸びを示しており、2000年には1,782万人となった。中でもアジア地域への旅行者の増加が著しく、中国が約20%増、韓国が約13%増、タイが約8%増となっており、国内観光と同様に「安・近・短」の傾向が見られる。また、ここ5年間は、全体の伸びが約30%であるにもかかわらず、60歳以上の高年代層は60%以上の伸びを示している。

一方、日本を訪れる外国人観光客は、2000年には476万人と過去最高を記録した。インバウンド（外国人の訪日観光）は、その国の魅力を示すバロメーターと言われており、アジアからの訪日観光客の増加は、アジア地域の諸国・地域にとって、日本は魅力的な国ととらえられている。

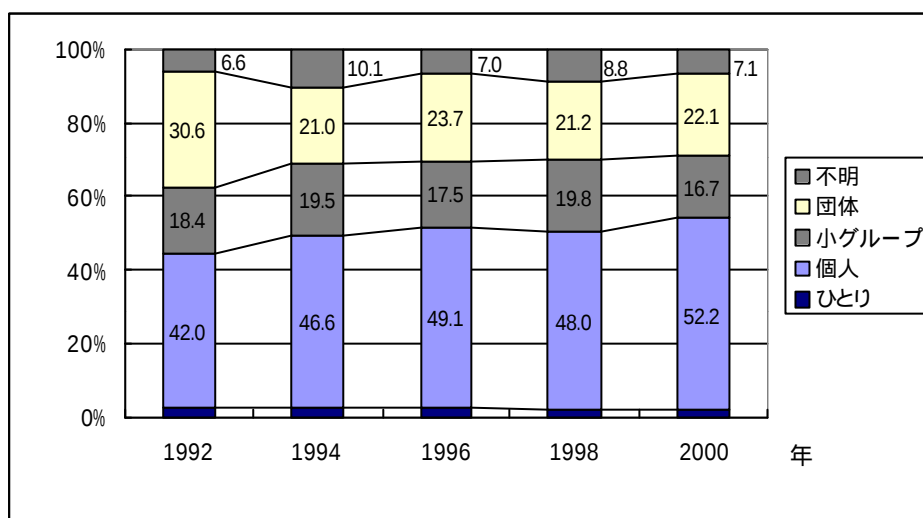
2) 旅行形態

■ 強まる旅行の個人化・小グループ化

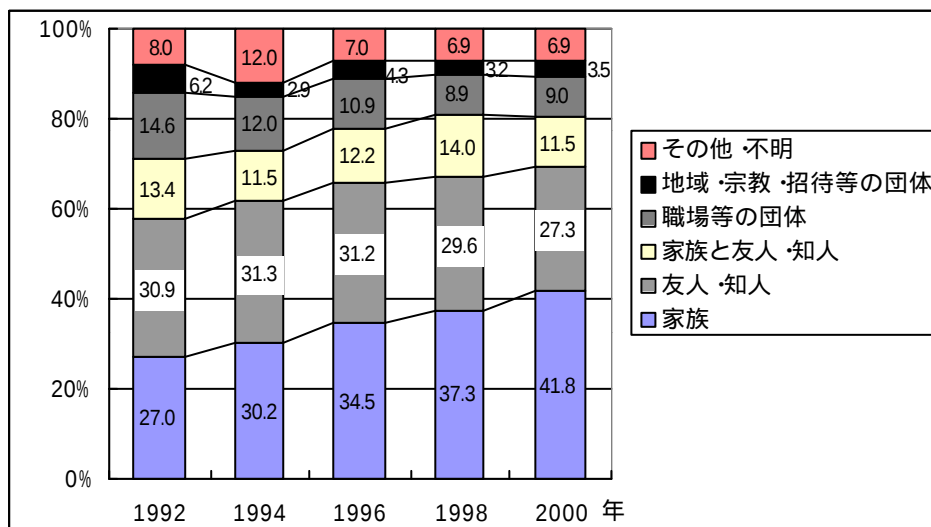
近年、宿泊観光旅行は、団体旅行が減少し、家族や知人・友人と一緒に旅行をする傾向にあり、ますます旅行形態は、個人化、小グループ化の傾向が強まっている。特に家族旅行は全体の4割を超えているほか、5人以内の旅行が全体の約55%を占めている。

このような旅行形態の変化は、利用交通機関にも影響を及ぼしており、自家用車利用が伸びる原因にもなっている。

宿泊観光旅行の同行者



宿泊観光旅行で一緒に旅行した人数の推移



出所) (社) 日本観光協会「観光の実態と志向 (第19回)」2001 (平成13) 年3月

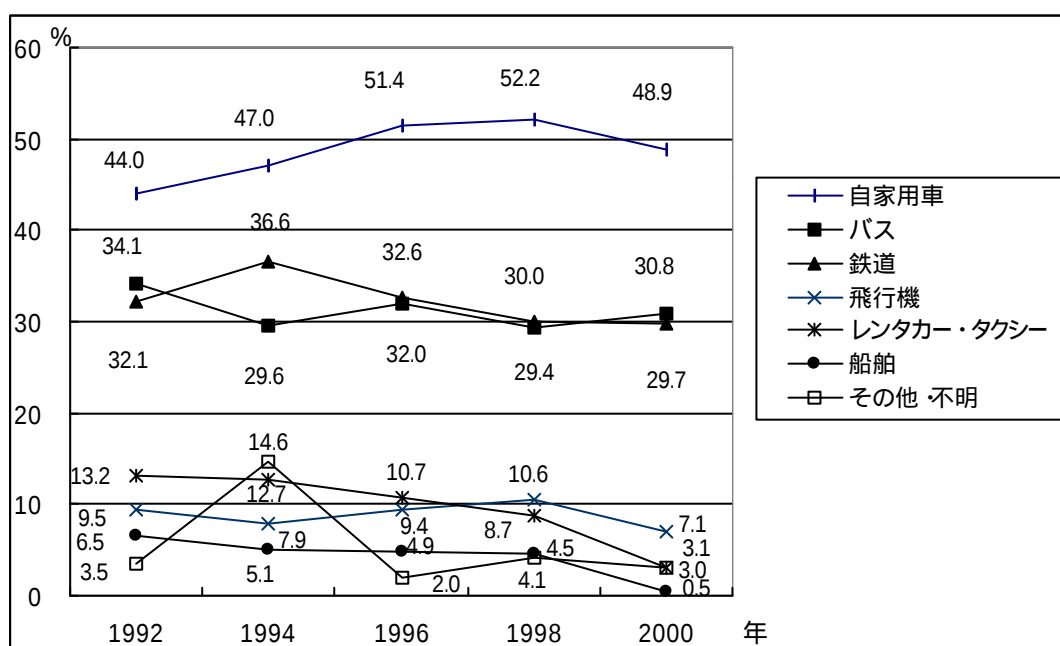
* 個人を2～5人、小グループを6～14人とした。

3) 宿泊観光旅行の利用交通機関

■ 自家用車利用が多く、バス、鉄道といった公共交通機関の利用が減少

旅行形態の個人化・小グループ化傾向に伴って、より小回りが利く交通機関である自家用車利用が多い。モータリゼーションの発達や広域交通網の整備、さらには、家族旅行の増加等が自家用車利用を促進している。観光目的の筆頭である温泉観光地は比較的地方に立地していることが多いため、鉄道を利用する場合、2次交通の利便性が課題となり、荷物の運搬も容易な自家用車の利用が増加する。さらに、自家用車は3～5名になると交通費が割安になることも、自家用車利用を促進する結果をもたらす。

宿泊観光旅行の際の利用交通機関（複数回答）



出所) (社) 日本観光協会「観光の実態と志向(第19回)」2001(平成13)年3月

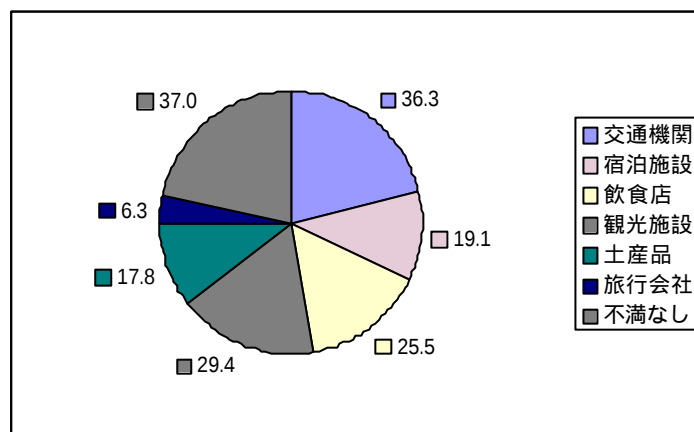
4) 宿泊観光旅行に対する不満

■ 観光旅行に対する不満で最も多いのは、交通機関に対する不満

観光において最も不満が多いのは、交通機関に対するものであり、その内容は、混雑することへの不満が最も多い。次いで食事に関する不満が多く、観光施設や宿泊施設に対する不満も比較的多い。

交通に関しては、アクセス時間は事前に予測できることから、距離に対する不満はないものの、予定通りに到着できない場合、観光地あるいは途中での行動が制約されてしまうため、混雑することへの不満が大きくなっている。なお、混雑は、目的地周辺や目的地での混雑も含まれるため、広域的な交通渋滞のみならず、観光地内、観光地間の混雑解消が、観光客の不満解消につながる。

宿泊観光旅行に対する不満理由



不満原因	内 訳	回答者割合	不満原因	内 訳	回答者割合
交通機関		36.3	観光施設		29.4
	混雑した	31.8		入場料が高かった	17.1
	サービスが悪い	1.2		駐車場がなかった	8.0
	連絡が悪い	2.6		誇大宣伝だった	6.6
	指定券の入手が困難	1.1		まわりが汚かった	2.6
	その他	1.7		その他	1.3
宿泊施設		19.1	土産品		17.8
	食事が悪い	7.9		料金が低い	11.2
	料金が低い	7.6		買いたい土産物が無い	4.9
	サービスが悪い	3.3		容量表示がない	0.9
飲食店		25.5		その他	2.3
	料金が低い	14.7	旅行会社		6.3
	味がまずい	9.3		斡旋旅館が悪い	2.2
	サービスが悪い	3.7		コースが不適切	1.5
	その他	3.7		対応が不親切	0.8
				その他	2.0
			不満なし		37.0

出所) (社) 日本観光協会「観光の実態と志向 (第19回)」2001 (平成13) 年3月

内訳に関する回答はそれぞれ複数回答であるため、各原因のトータルの数字とは一致しない。